

# 10枚の愛蔵コレクション

120%



スペインでサレジオ会が活動して100年になるのを記念して、ドン・ボスコと青少年たちの像を描いた切手が発行されました。

スペインにおけるサレジオ会100年



ドン・ボスコが尊敬をもって接していた生徒であり、師自らの伝記『ドミニコ・サヴィオの生涯』を著しています。

ドン・ボスコとドミニコ・サヴィオの肖像



クロアチアはローマ・カトリックが強い風土もあって、サレジオ会の活動が盛ん。1913年から活動が開始されています。

クロアチアにおけるサレジオ会100年



私の No.1

世界に広がるサレジオ会の活動

イタリア(1977)  
ドン・ボスコの精神を受け継いで、地球上に広がる兄弟たちの強い連帯を表しています。130カ国を超える国と地域で活動を行っており、カトリックではイエズス会に次ぐ規模です。



イタリア(1957)  
ドン・ボスコの生徒の1人で、司祭になるための勉学に励みましたが、14歳で死去。ピオ12世により、1954年に聖人に叙せられました。

高弟のドミニコ・サヴィオ



サレジオ会最初の宣教地

アルゼンチン(1970)  
ドン・ボスコは1874年、アルゼンチンへのサレジオ会への宣教を決め、翌年首都ブエノスアイレスで約3万人のイタリア移民たちに歓迎を受けることとなりました。

\*サレジオ会創設者

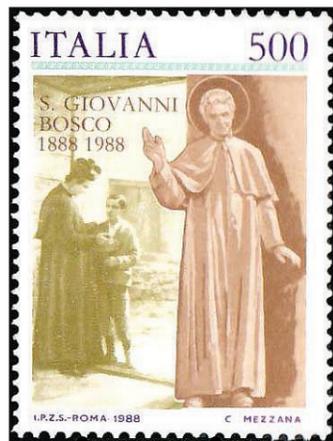
## ドン・ボスコの切手

世界各国のゼネラル収集をしていると、日本ではあまり知られていないものの、なぜか繰り返し切手に描かれる人物を見つけることがあります。そんな人物を1人あげるとすれば、私は迷わず、カトリック教会の聖人であり、偉大な教育者として知られるドン・ボスコ(\*)の名をあげたいと思います。

ドン・ボスコは1815年に北イタリアの農村で生まれ、貧しい母子家庭の中で育ちます。若き日のドン・ボスコは大工・靴職人・カフェ店員・家庭教師などの仕事をしながら、苦学して司祭(神父)になりました。1841年、彼はイタリア統一運動や産業革命の進行に取り残され、路上の貧しい暮らしを送る若者たちの現実を目の当たりにし、彼らのために生涯をささげる決意をします。1853年に身寄りのない若者たちのための職業学校を始め、1859年にサレジオ会(修道会)を創設。魂を愛し育てる教育を世界に広めました。

サレジオ会の運営する学校はカトリック圏の国々に広く存在し、ドン・ボスコの功績を称える記念切手も時おり見られます。今年にはドン・ボスコ生誕200年ということもあり、母国イタリア、バチカン市国、オーストリア、ポーランドをはじめ、いくつかの国で新切手が発行されています。

■板橋祐己(S5005):サレジオ学院中学校・高等学校在学中から本格的に切手を収集。校長室にはドン・ボスコ死去100年の初日カバーが飾られていたのを覚えている。卒業後、当時の校長先生(神父)と話す機会があり、「切手を見ると、板橋くんの顔を思い出すよ」と苦笑された。



ドン・ボスコ死去100年

イタリア(1988)  
ドン・ボスコは1888年1月31日、トリノのヴァルドッコで死去します。葬儀には約10万人が参列しました。

\*ドン・ボスコは一般にはヨハネ・ボスコと表記される。ドンとはイタリア語の司祭(神父)への敬称であり、カトリック関係者の間では親しみをこめてドン・ボスコと呼ばれる。



カトリック出版会議記念

バチカン市国(1936)  
ドン・ボスコは、出版関係の守護聖人でもあります。この切手と同時に、サレジオ会の由来となった聖人フランシスコ・サレジオの切手も発行されています。



サレジオ会国際教育会議

オーストリア(1988)  
ドン・ボスコ死去100年の年に、ウィーンのホーフブルクで開催された教育会議を記念して発行されました。

第12回サレジアン・ユース大会

ポーランド(2000)  
ドン・ボスコは「動かない水は腐る」とし、教育の中でスポーツを重視しました。欧米ではサレジオ会のスポーツ大会が定期的に開催されています。

